

# オオハンゴンソウ

科名：キク科  
学名：*Rudbeckia laciniata*  
原産地域：北アメリカ

## 【どんな被害を引き起こすのか】

### 生態系：在来植物の駆逐

- ・ 湿原や自然公園内の在来植物と競合、駆逐
- ・ 繁殖力が旺盛であり、大きな群落を形成
- ・ 高さ3mに達する大型の草本類であり、他の植物への光を遮り、生育を阻害する

- ・ 高さ0.5mから3m程度になる多年生草本
- ・ 下部の葉は長い柄があり、5～7深裂し、裂片に粗い鋸歯がある

## 【生育場所】

- ・ 路傍、河原、湿原、道路端や線路の沿線等
- ・ しばしば河川敷等の湿った場所に大群落をつくる

舌状花



筒状花



## 【どこまで広がっているか】

### 長野県では

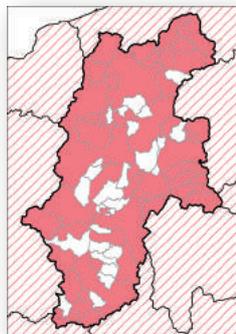
- ・ ほとんどの市町村に分布

### 全国では

- ・ 明治中期に北米から観賞用の園芸植物として持ち込まれた
- ・ 現在は、ほぼ全国に分布（中部地方以北の寒冷な地域に多い）

### 世界の分布

- ・ 世界各地に分布（主に温帯域）



2019年現在  
■ 定着 ■ 一部地域に定着

- ・ 開花は7～10月頃
- ・ 長い花柄の先に直径6～10cmの黄色の頭花をつける
- ・ 舌状花は黄色で6～14個、中央の筒状花は黄緑色

- ・ 結実は、開花後の夏～秋
- ・ 果実はやや扁平で4～5mm
- ・ 突起状の冠毛がある



春季の芽生え



初夏の葉

## 【間違わないで！】主な類似植物（外来種）

### アラゲハンゴンソウ (キク科)



- ・ 開花は7～10月
- ・ 花の直径は6～10cm
- ・ 舌状花は黄色～橙黄色で12～20個、筒状花は紫黒色（品種によっては緑色もある）
- ・ 葉は分裂しない

### クワイモ (キク科)



- ・ 開花は8～11月
- ・ 花の直径は5～10cm
- ・ 舌状花は黄色で10～20個、筒状花は黄色
- ・ 葉は分裂しない

## 【特性】

- ・ 耐寒性が強く、ブナ帯や亜高山帯の湿原や林床にも侵入する
- ・ 種子の生産量が多く、1株あたり1,600個の種子ができるといわれている
- ・ 種子は休眠性があり、土壌に埋まっても発芽能力を維持するため、土壌シードバンクを形成する
- ・ 埋土種子は3年間は発芽能力があるといわれている
- ・ 種子のほか、地下茎から側枝を伸ばして広がる（クローン成長）
- ・ 根茎の一部からでも地上部を再生する能力がある

## 【生活史】



## 【防除方法】

### 作戦を立てる！

根茎からでも増えるオオハンゴンソウは、根を残さないこと、種子を作らせないことが重要です。現場の状況、作業人数、使用できる道具によって、選択できる防除方法は異なります。どのような防除に取り組むか、まずは作戦を立てましょう。

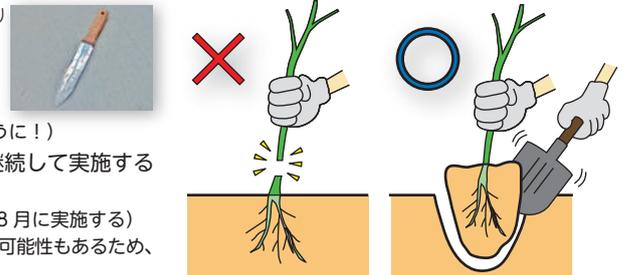
### 作業を見直す！

防除効果を実感できないときこそ、作業の見直しが重要です。記録した実施内容や経過の観察から減らない要因を考え、防除方法を組み合わせる、道具を使う、作業回数を増やすなど、作業を効果的にする方策を探りましょう。

### 抜き取り 根絶を目指す

- 種子のほか根茎でも拡がり、根茎の一部分でも残っていればそこから再生するため、根ごとしっかりと抜き取る
- スコップや根掘り等を用いて根ごと抜き取る（できるだけ根を残さないように！）
- 年1回以上（種子を散布する結実期が始まる前の4～8月頃）、3年間以上継続して実施する
  - ※大きく成長していると抜き取りにくくなるため、5～6月頃が実施しやすい（ただし、花のない状態で識別が難しい場合は、識別しやすい開花時期の7～8月に実施する）
  - ※土壌中には大量の種子が存在する可能性があり、また周囲から種子が供給される可能性もあるため、毎年継続して実施していくことが必要

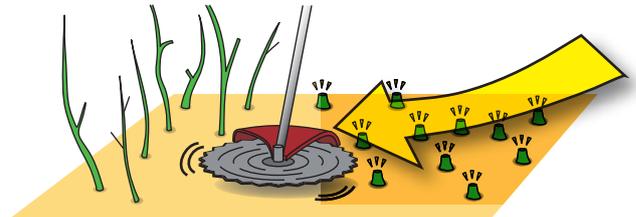
根掘り



### 刈り払い 抑える

広範囲を防除したい場合に適している

- 多年生草本であり根は太く、人力で抜き取る作業は大変
- 刈払機等による刈り払いは抜き取りに比べると作業は軽微であり、種子をつける前に実施すれば、種子による繁殖を抑える効果がある（ただし、残った地下茎から再生するため、継続した実施が必要）
- 年に1回以上（種子を散布する結実期までの4～8月頃まで）、3年間以上継続して実施する
  - ※1回の刈り取り程度では、切株からたくさんの萌芽が発生し、樹勢が旺盛になることもあるため、継続した実施が必要



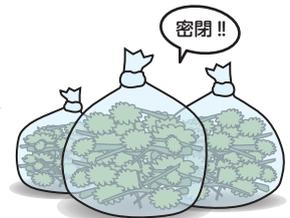
### 刈り払い+抜き取り 抑える・根絶する

刈り払いと抜き取りを組み合わせ効率化をはかる

- 刈払機によりオオハンゴンソウを刈り払い、草丈が低くなったオオハンゴンソウを抜き取る
- 刈り払いは7月と8月に実施し、刈り払い後の7月と8月と9月に抜き取り作業を実施
  - ※刈り払いによって、オオハンゴンソウが見つけやすくなり、草丈が低い状態での抜き取りや搬出作業もしやすく、作業効率が上昇する
  - ※ただし、刈り払い後の草丈の低い状態のオオハンゴンソウを識別できることが必要

### きっちりと処分する ～作業後～

- 抜き取ったまたは刈り払ったオオハンゴンソウは、密閉できるゴミ袋等に入れて枯らす
- それぞれの自治体のごみ処理方法に従って焼却処分する
  - ※特定外来生物に指定されたものは、原則として「飼育、栽培、保管及び運搬すること」、「輸入すること」、「野外へ放つ、植えるまたはまくこと」、「譲渡、引き渡し、販売すること」が禁止されている
  - ※なお、以下のすべてに該当する場合は、運搬・保管が可能
    - ・防除した特定外来生物である植物を処分することを目的として、ごみの焼却施設等に運搬するもの
    - ・落下や種子の飛散等の逸出防止措置が運搬中にとられているもの
    - ・特定外来生物の防除である旨、実施する主体、実施する日及び場所等を事前に告知する等、公表された活動に伴って運搬するもの
    - ・保管中の逸出防止措置がとられており、第三者が容易に持ち出すことができないよう実施する主体において管理され、かつ必要最低限の期間に限り行う場合



### 拡げない ～新たに植えない・残さない～

- オオハンゴンソウは黄色で目立つ花をつける
- 花がきれいだからといって、野外に生育する株や種子を持ち帰って自宅に植えることは絶対にしない
- 清掃活動等で草刈りを行う際には、残さずにしっかりと刈り取る